

## 健康と生活をつなぐための備えを 防災をテーマに「健康まつり」を開催

「健康まつり2024」が9月7日、共生館で開かれました。まず「高池健康づくり優良者表彰式」が行われ、自治会の推薦を受けた10人に表彰状が贈られました。受賞者を代表して成田忠史さん(84)が「皆さんに支えられて今がある。受賞を励みに、地域に恩返しをしたい」と謝辞を述べました。続く講演では日本赤十

字社愛媛県支部の門屋純一さんが「災害への備え」と題して登壇。「被害を少しでも小さく。地域を知り、日頃のお付き合いを大切に。非常食は栄養バランスも考えて」と、備えの大切さを呼びかけました。他にもポリ袋を使った炊飯体験、防災グッズ展示なども実施。参加者は災害から命と健康を守るための備えを学びました。



1\_式典の合間に血行促進のミニ体操 2\_講演した門屋さん 3\_VR(仮想現実)映像で災害現場を体験

## 道路美化に努めた24年の歩み 小田分校に国土交通大臣感謝状

長年の道路美化活動への貢献をたたえて、内子高校小田分校に国土交通省から感謝状が贈られ、伝達式が8月27日、大洲土木事務所で行われました。同校は平成12年から生徒会・家庭クラブを中心に、交通安全の啓発と道路清掃を実施。校外学習

時のごみ拾い、国道沿いで花の植栽なども続けています。家庭クラブ会長の福岡天翔さんは「学校の根付く活動。小さなこととの継続が大事」と話し、生徒会長の源田大空さんは「続けてきた先輩たちのおかげ。いい伝統を残したい」とほほ笑みました。



生徒を代表して活動内容について語る福岡さん(左)と源田さん

## 四半世紀続く「内子座文楽」 人形浄瑠璃の世界を味わう2日間

「内子座文楽第25回公演」が8月24・25の両日、内子座で開かれました。保存修理を控える同館の今年度最終公演に、延べ1350人が来場しました。初日の鏡開きに続く舞台で、家屋の新築を祝う「寿柱立万歳」、愛する人を守る「娘とその父の心情を描いた」撰州合邦辻一合邦住家の段の演目を披露。西予市出身の人形遣いで人間国宝の吉田和生さん、太夫の豊竹

若太夫さん、三味線弾きの鶴澤清介さんらの熱演で会場を沸かせました。また公演に併せて、新企画「夜まち歩き」を24日、本町通り商店街などで行いました。内子座文楽出演者によるミニ公演の他に、福を招くとされる「三番叟まわし」を阿波木偶箱まわし保存会が披露。人形浄瑠璃関連展示などもあり、夜の町並みが昔懐かしい情緒と賑わいにあふれました。

1\_人形を巧みに操る吉田和生さん(右)と吉田玉男さん 2\_豊竹若太夫さん(左)の語りと鶴澤清介さんの三味線が客席の心をつかむ 3\_寿柱立万歳の一場面 4\_商店街を巡った「でこまわし」 5\_上芳我家住宅の土蔵でミニ公演を実施 6\_「よいしょ」の掛け声が響いた鏡開き



## 館内に眠るモノと歴史を再発見 「内子座かたづけタイ」始動

内子座の保存修理工事に向けた清掃作業が9月7日に行われ、住民や大学生ら43人が参加しました。内子座は工事を前に2日から休館。まず愛媛大学社会学部創学部准教授の井口梓さんが「休館中は施設の歴史に触れ、価値を再発見するチャンス。

みんなで文化財を守る、という意思を行動で示そう」と活動の意義を説明。参加者は館内に眠る大量の火鉢や轆などの搬出に汗を流し、「多くの人が手入れしてきた歴史を感じる」「地域の大切な財産をきれいにできてうれしい」と話しました。



上\_環境保全をテーマに、流ちょうな英語でスピーチした脇坂さん 下\_大会に出場した皆さん

## 磨いた発音、構成、表現力 中学生が英語で思いを語る弁論大会

「第22回内子町中学校英語弁論大会」(内子町教育委員会、(協)内子町国際交流協会主催)が9月27日、共生館で開かれました。町内4校から9人が出場し、ふるさとへの思いや将来の夢などをテーマに熱弁しました。審査員長の愛媛大学准教授・三浦優生さんは「完成度が高く驚き。事実と意見、体験を述べる構成もよく、心に響いた」と講評しました。

### 上位入賞者と弁論タイトル

1位	脇坂 瑠夏さん (五十崎中3年) 「Toward a Sustainable Future」
2位	山本 遥斗さん (内子中3年) 「What I want most is a mountain bike」
3位	西岡 芳太郎さん (五十崎中3年) 「Changing the Future is Up to Us」

※1位の脇坂さんには青少年海外派遣事業の派遣団員になれる権利が与えられます。